

<2021年度研究大学コンソーシアム シンポジウム>

組織と分野、国境を越えた  
研究力強化への取組  
～“総合知”を生かす～

2021年10月29日（金）

発表機関：電気通信大学

連携機関：東北大学、筑波大学、東京工業大学、  
京都大学、岡山大学、国立台湾大学

# 背景・申請対象・狙い

## 背景

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、“**社会の分断**”が進行
- ・アカデミアの領域における“**総合知**”を生かして、with/afterコロナの社会に貢献したい

## 申請対象とする事業の目的と助成（抜粋）

社会経済活動が複雑に連結する国際社会において、新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックが世界各国で甚大な人的・経済的・社会的影響を及ぼすとともに、その対処を通して政治・経済、法制度、科学技術、国際関係など様々な分野において多くの脆弱性や課題が浮き彫りになりました。現在、**国際社会はCOVID-19禍収束への努力とともに、よりレジリエントな社会の構築に向け、COVID-19禍からの教訓と知を共有する必要があります。**

**臨床研究や生物医学的研究ではなく、COVID-19禍が市民生活、政治・経済、法制度、科学技術、地域社会、国際関係などに及ぼした影響についての人文社会科学、政策科学、社会医学的側面からの調査分析や国際比較調査分析など**としますが（中略）

## 狙い

- ①異分野連携のテーマである
- ②RUC-DXPFのトップダウンテーマ（MIRAI）とも合致している
- ③新たな財源の確保に繋がられる可能性がある

# 活動の位置づけ

- RUC-DXPFの活動におけるパイロットプロジェクトとして実施。
- 組織、分野および国境を越えたURAの連携活動を先行的に実践。

## 「MIRAI プロジェクト」

研究者および  
伴走URAの募集

テーマの設定  
およびテーマ毎の  
グルーピング

グループ毎の  
テーマの深堀

グループ毎  
およびMIRAIの  
成果

経験値の  
フィード  
バック

テーマの深堀の  
実践と課題抽出

民間財団への申請  
および費用獲得

## 「H-プロジェクト」

# 事前準備：各大学の研究テーマのマップ化

## ●筑波大学：「知」の活用プログラム

世界的規模で広がる新型コロナウイルスによる危機的状況の解消を目指す。対象は、ウイルス、健康維持、心理ケア、教育システム、人の移動や密集、情報拡散、文化・芸術振興、家族関係など。

## ●東北大学：新型コロナウイルス対応特別研究プロジェクト

直面する新型コロナウイルスへの危機対応と新たな価値創造による社会システム・デザインやデジタル・コミュニケーション等の研究拠点の整備など、国内外の関係機関との連携により、地球規模の困難な未知の課題へ果敢に挑戦する取り組みへの支援とその枠組みを構築する

## ●東京工業大学：脱コロナ禍研究プロジェクト

コロナ禍による社会の課題を解決するためには、集眉の急となっているワクチン、治療薬開発だけでなく、医療デバイスや将来予測、働き方、ニュー・ノーマルへの理解など様々な課題があり、科学・技術と人文・社会科学双方の力が求められます。

## ●京都大学：生命・医療倫理の諸問題

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する研究

## ●岡山大学：文明動態学研究所 キックオフ・シンポジウム

「パンデミックと文明 –感染症と向き合う過去から未来へ–」

## ●電気通信大学：リスクマネジメント。人間の認知・判断・行動特性に着目

組織や社会の仕組みを解明するための社会科学アプローチなど多様なアプローチを統合する

⇒上記の研究テーマをマップ化し、組織と分野を超えた連携の可能性を検討。

# 筑波大学：新型コロナウイルス緊急対策のための 大学「知」活用プログラム



- いち早く大学として社会に寄与。研究者による社会貢献の意思を支援
- 短期間で成果発信可能なプロジェクトを支援：**人文社会分野の活躍**
- 成果広報、一般向けコンテンツ発信強化：**研究連携を促進**

公募期間 2020年 4月28日 ~5月11日	<b>A. 短期集中型</b>
	<b>研究費</b> 研究期間：10月30日まで
	<b>広報費</b> 広報費の支援は2月末まで
採否発表 5月25日	<b>B. 中期型</b>
	<b>研究費</b> 研究期間：2021年3月31日まで

大型研究プロジェクトへの発展を目指し  
成果広報・異分野連携を支援



2週間の学内公募で69件の応募、27件を採択

	A. 短期集中型	B. 中期型
支援額（上限）	研究費50万円 + 広報費50万円	研究費100万円
採択数（応募数）	18件（49件）	9件（20件）

人の行動や関わり方に関する研究課題が多くを占めた  
(心理、社会科学、教育、経営、法、住環境、シミュレーションなど)

医療 Medicine 4件	健康 Health 3件	心 Mind 3件	暮らし Living 8件	教育 Education 5件	文化 Culture 4件
----------------------	--------------------	-----------------	---------------------	-----------------------	---------------------

[https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight\\_covid19/](https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19/)

# 東北大学 新型コロナウイルス対応 特別研究プロジェクト

7本柱を軸とした、新型コロナウイルス研究に貢献する取組みを推進する。

直面する新型コロナウイルスへの危機対応と新たな価値創造による社会システム・デザインやデジタル・コミュニケーション等の研究拠点の整備など、国内外の関係機関との連携により、地球規模の困難な未知の課題へ果敢に挑戦する取組みへの支援とその枠組みを構築する

## ① ウイルス検出と分析

タンパク質、ゲノム、抗原等、感染症診断技術の開発

## ② 予防および治療法開発

治療薬、予防薬、ワクチン、治療機器を含む

## ③ アウトブレイク対応

緊急レスポンス、流行の初期および蔓延期対応、感染経路・クラスター対策などを含む

## ④ 社会システム・デザイン

収束期対応、平時の新興・再興感染症対策、社会的行動変容、精神・心理的ケアなどを含む

## ⑤ デジタル・コミュニケーション

可視化、サイエンスコミュニケーションを含む

## ⑥ 基礎・臨床・疫学研究

ウイルス複製・病原性、ウイルス感染・重症肺炎病態、感染免疫、感染疫学などを含む

## ⑦ 国際協力

WHO、CDC等の国際感染症対策、安全保障問題、バイオテロ対策などを含む



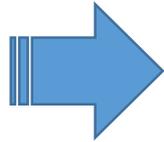
区分	欧州			アジア			北米・南米	
	英国	ドイツ	日本	マレーシア	中国	インド	米国	中米

①行動変容  
(政策/環境)

日英独市民の行動変容の比較分析

行動調査

行動規制と経済  
活動の活性化

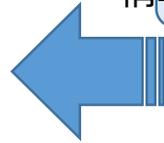
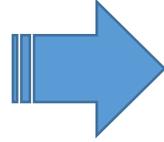
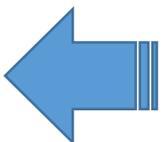


②国際移動  
(移民2世支援)

中高生の日本語学習支援  
情報のDB化と支援のオンライン化

人の移動  
調査

移動制限の  
効果と影響  
の分析



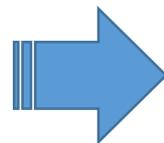
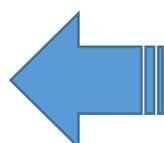
③心の回復力  
(ストレス低減)

介護分野、  
保険との関係  
英国展開予定

コロナ禍における心の回復力の国際比較

外出自粛のメンタル  
ヘルスへの影響調査

③メンタルヘルス  
(抑うつ症状)

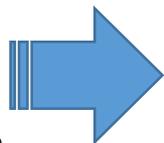


- 東北大
- 筑波大
- 東工大
- 電通大
- 京都大
- 岡山大

⑥文化・芸術支援  
(施設/若手育成)

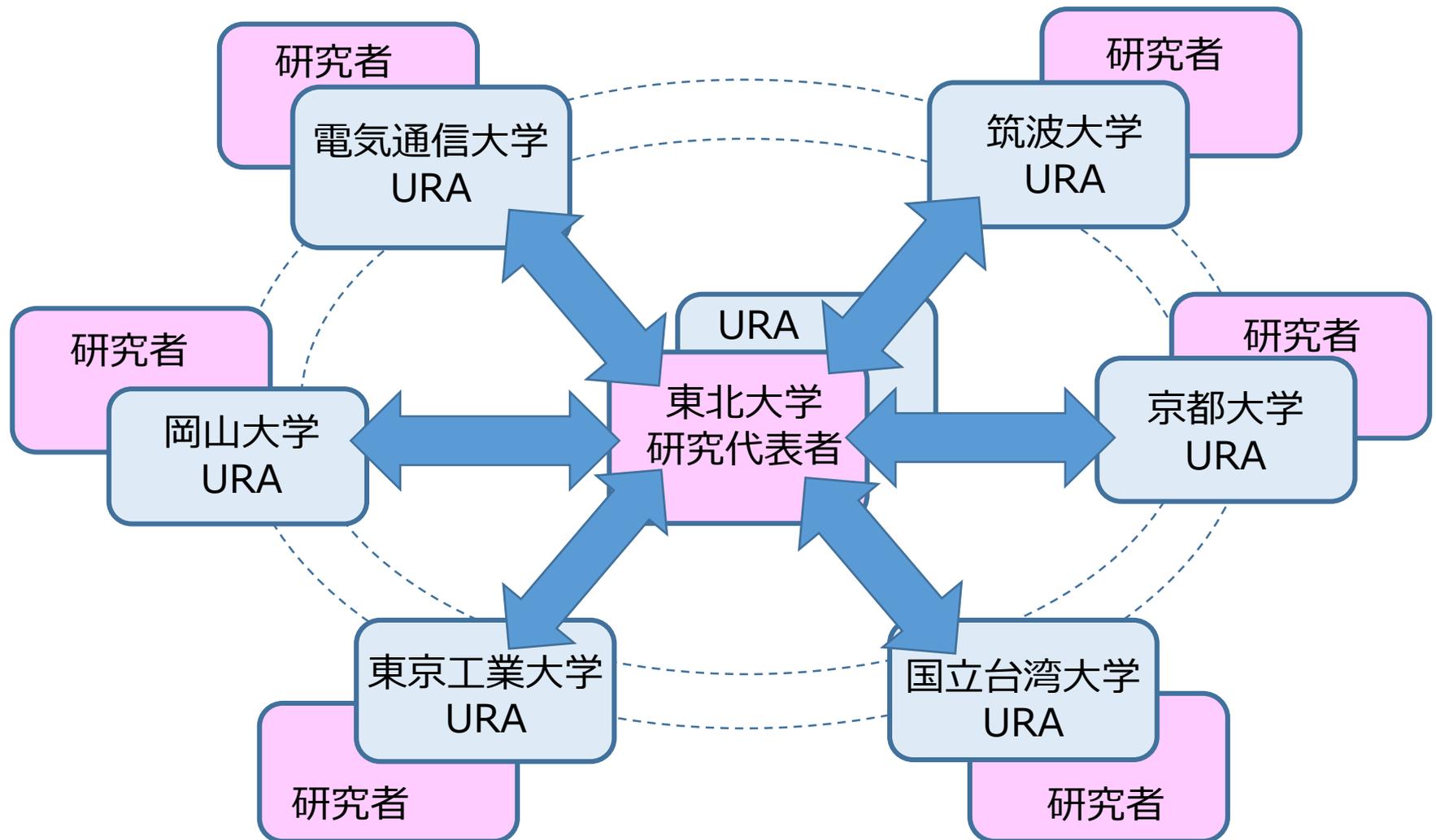
人間のあり方と利地

夜の文化・芸術的創造活動に着目し、  
コロナ禍の影響と支援策を国際比較する

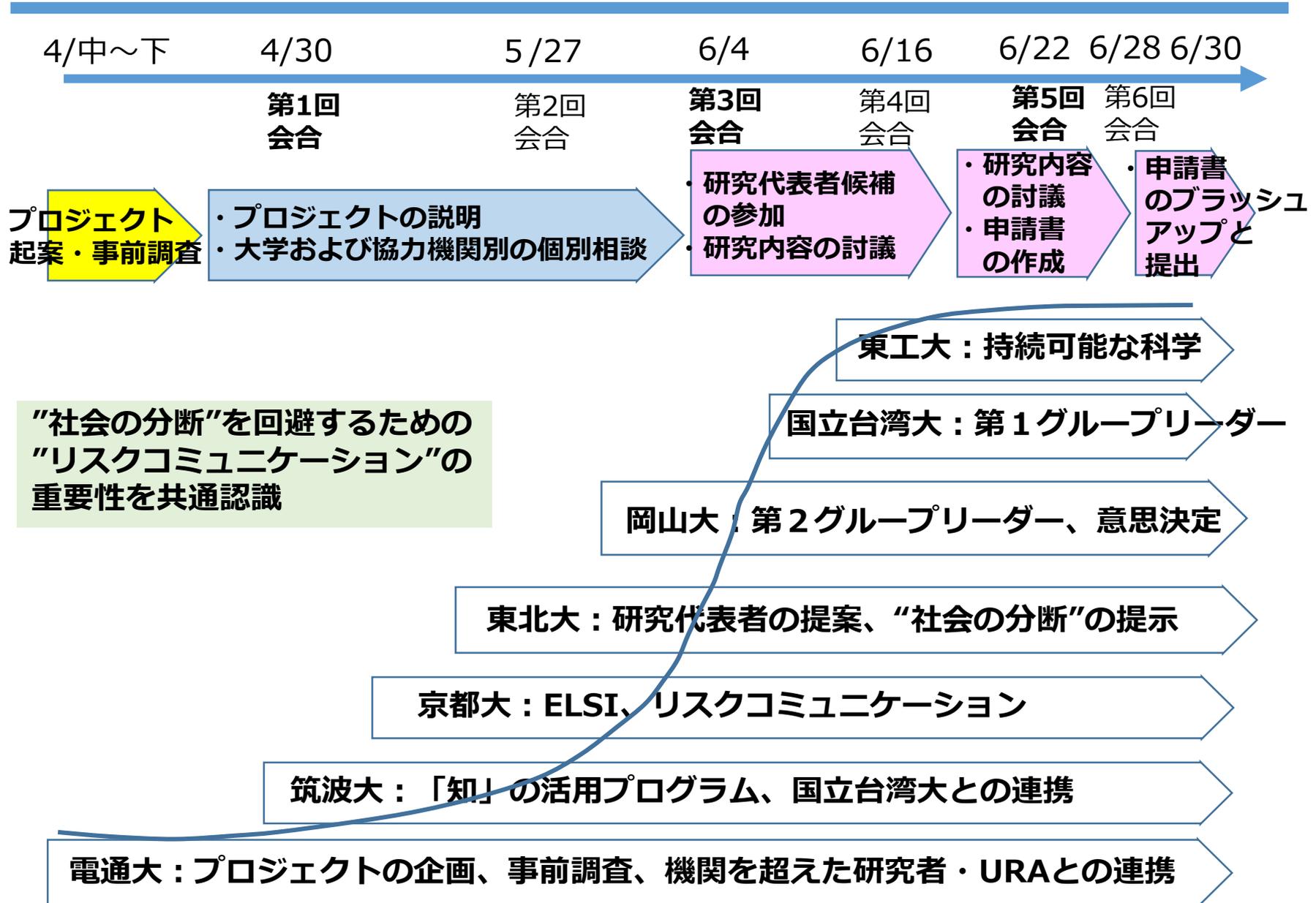


# 組織、分野、国境を超えたURAと研究者の連携体制

- 共通認識：新型コロナウイルスによる“社会の分断”を回避するための“リスクコミュニケーション”の重要性



# 活動の流れ：怒涛の2か月間



# 活動を通じた気づき (メンバーからのコメントを一部編集)

---

## ①連携プロジェクトを企画・運営するURAの役割

- ・ 複数の研究者・研究内容を把握し、ファンドにあったプロジェクトを設定
- ・ 他大学のURA・研究者とのコミュニケーションおよび調整
- ・ 各機関のURA・研究者の状況の把握
- ・ 機関をまたいだ複数の研究者・URAとの打合せを設定・運営
- ・ 機関をまたいだ複数の研究者・URAの意見・考えをまとめる
- ・ 複数の研究者・URAとの申請までの計画を策定し、進行管理する

## ②連携プロジェクトに参加する機関のURAの役割

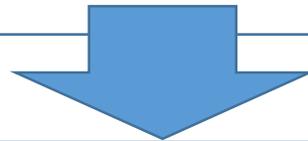
- ・ 自大学/自大学の研究者の利益だけに偏らないチームングに協力するモチベーション

## ③信頼関係

- ・ 主軸となるURAと、他機関とのURAとの信頼関係

# 怒涛の2か月間の活動を振り返って

- ①申請分野の研究テーマのマッピング化による意識の共有化
- ②組織・分野・国が異なるURA間での思い・課題認識・ゴールの共有化
- ③“総合知を生かす活動”に対する研究者の理解と協力。  
研究者間でのお誘いによる人的ネットワークの広がり
- ④研究者とURA間の日常的な相互信頼関係の構築と活用



組織・分野・国境を越えた“総合知”が  
国の研究力強化の未来を創る！

ご清聴ありがとうございました！